

# スピード感を持ってグローバル化を断行し、世界と競う大学の重点支援

日本人の英語力は世界的に低い水準

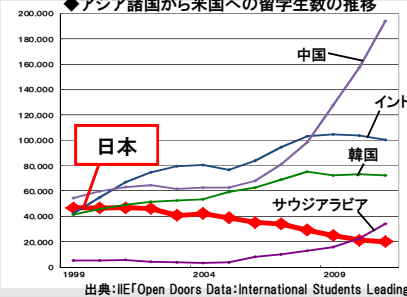
◆TOEFL(iBT)スコア別ランキング(アジア内順位)

|           |     |
|-----------|-----|
| 1. シンガポール | 99  |
| 2. インド    | 92  |
| 3. パキスタン  | 90  |
| ...       | ... |
| 7. 韓国     | 82  |
| ...       | ... |
| 14. 中国    | 77  |
| ...       | ... |
| 28. 日本    | 69  |
| 29. ラオス   | 68  |
| 30. カンボジア | 66  |

ETS-Test and Score Data Summary for TOEFL Internet-based and Paper-based Tests  
JANUARY 2011-DECEMBER 2011  
TEST DATA

世界規模の学生交流が拡大する中、日本人の海外留学は減少

◆アジア諸国から米国への留学生数の推移



大学のグローバル化対応が遅れ、国際的な評価を下げている

◆Times Higher Education「World University Rankings」(2012-13年度のランキング)

- カリフォルニア工科大学(米)
- スタンフォード大学(米)
- オックスフォード大学(英)
- ハーバード大学(米)

27. 東京大学

- 北京工科大学(中国)
- 浦項工科大学(韓国)
- 清華大学(中国)
- 京都大学
- ソウル国立大学(韓国)
- 韓国科学技術院(韓国)

THEランキング「国際」指標平均点  
世界トップ5 70.0  
中国トップ2 45.7  
韓国トップ3 29.7  
日本トップ2 27.0

## 今後取るべき対策

### 世界と競う大学形成に向けた構造転換

世界レベルの大学やグローバル化対応に実績を誇る大学を10年間にわたり重点支援  
学長の強いリーダーシップによる徹底した国際化推進を義務付け

#### 具体的取組

#### 1 大学の体制の徹底した国際化

- 海外で学位取得した若手・外国人の積極採用
- TOEFL等の入試・教育指標への活用
- 柔軟なアカデミック・カレンダーの導入

#### 2 学生交流の大幅拡充

- 多様な留学機会の提供、支援体制充実
- 学生・留学生の語学力の徹底強化
- 現地リクルート体制の強化

#### 3 現行制度の枠を越えた先導的取組の実現

(例) 優秀な学生は早く卒業させ、かつ簡単に卒業させないメリハリ  
効いた教育の提供、海外トップ大学との多様な連携ができるように措置

#### 成果指標

#### 国際通用性ある学修の実現へ

学部一般入試に外部試験導入、卒業要件化  
英語で授業を実施(5年で3割、10年で5割超)

#### 多様性あるキャンパスの実現へ

卒業までに半数の学生に海外経験  
在学生に占める外国人留学生比率2割

#### 世界トップレベルの大学へ

世界大学ランキングトップ100位以内に10校

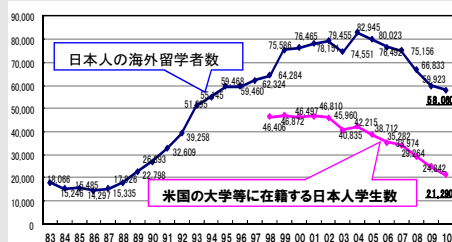
6

## 日本人の海外留学の倍増

- 少子化の急激な進行とともに、日本企業の世界展開が進む我が国において、一人ひとりの能力を高め、日本の成長を牽引する「強い」日本人を育成する必要がある。

### 日本人の海外留学者数が急激に減少

海外留学する日本人数は、2004年(8.3万人)をピークに2010年には30%減の5.8万人に。



### 日本企業の世界進出

日本企業の海外現地法人企業数はアジアを中心に増加。

※ アジア: 6,345社→11,497社、米 国: 2,596社→2,860社、欧州: 2,147社→2,536社、中南米: 738社→972社 (2001年→2010年)

### グローバル人材の需要の高まり

多くの企業において「グローバル化を推進する国内人材の確保・育成」が課題

※ 経済産業省「グローバル人材育成に関するアンケート調査」(2010年3月)における海外拠点を設置する企業の回答において、74.1%の企業が「グローバル化を推進する国内人材の確保・育成」を課題と認識。

### 日本人の海外留学に係る主な阻害要因

- 就職への影響
- 経済的負担
- 学事暦のミスマッチ
- 大学の体制の不十分さ
- 語学力の低さ

### 今後取るべき対策

#### 阻害要因を除去し、海外留学を促進

#### ①就職への影響

⇒産業界と連携した就職活動時期の是正

⇒海外インターンシップ等を組み込んだ実践的な取組の促進

#### ②経済的負担

⇒奨学金の抜本的拡充

#### ③学事暦のミスマッチ

⇒秋季入学の導入等、学事暦の弾力化の促進

#### ④大学の体制の不十分さ

⇒スピード感を持ってグローバル化を断行し、世界と競う大学の重点支援

#### ⑤語学力の低さ

⇒大学入試や卒業認定へのTOEFL等活用の飛躍的拡充、世界トップレベルの学力・人間力強化

KPI: 日本人の海外の高等教育機関への留学者数を倍増  
(6万人→12万人)